

ニュージーランドと日本国との外交関係樹立六十周年を共に喜びたいと思います。

両国の外交関係は、六十年前の一九五二年四月二十八日のサンフランシスコ講和条約発効をもって始まり、貴国は、アジアで初めての在外公館を我が国に開設し、我が国も貴国に公使館を開設しました。その後、両国は友好関係を深め、貿易、観光の拡大のみならず、現在では三万名を超える日本語学習者、四十二にものぼる姉妹都市交流等を通して、両国は重層的な人や文化の繋がりを築いてきました。

貴国と我が国は、アジア太平洋地域において民主主義等の普遍的価値を共有するかけがえのないパートナーとして、アジア太平洋経済協力（APEC）や東アジア首脳会議（EAS）等の様々な地域的枠組みを通じ協力を深めております。これにとどまらず、開発援助、環境等の地球規模問題への対応を通じて国際社会全体の平和と繁栄に、共に大きな貢献をしています。アフガニスタンや太平洋島嶼地域での貴国と我が国との協力は、その最近の協力の好例です。

このように幅広くかつ深みのある友好関係を築いてきた両国は、昨年、わずか十八日の間にともに大地震に見舞われるという筆舌に尽くし難い困難を共有しました。クライストチャーチ地震発生後、すみやかに我が国緊急援助隊がニュージーランドに到着し、被災者の捜索救助のために力の限りを尽くしました。東日本大震災においては、クライストチャーチで連日懸命な活動を続けた貴国救助隊が、直ちに我が国に駆けつけ、最も甚大な被害を受けた地域の一つである宮城県南三陸町において、支援活動を展

開されました。二つの震災において示された相互支援は、これまで両国間で積み重ねられてきた、幾多の交流の結晶と言えるでしょう。

両国の外交関係樹立六十周年を記念して、ニュージーランドのシンボル、シルバーファーンと折鶴から成るロゴが選定されました。折鶴は平和への祈りを意味します。また、鶴は、我が国において長寿の象徴でもあります。共に震災からの復興に励むなか、両国の歴史に刻まれる日を迎えることとなりました。

太平洋を隔て、地理的には遠く離れているにも拘わらず、貴国と我が国との間には数々の共通点があることに驚かされます。まず、緑豊かな、そして形も少し似ている島国であることに気づきます。その他にも、慎み深く勤勉な人々、木造建築、温泉など、我が国との共通点を知る度に、貴国への親近感を覚えます。

このような、日本とニュージーランドとの協力・友好関係は、一朝一夕に成し遂げられたものではなく、貴国と我が国との六十年間の歩みを通じて育まれてきたことに思いを馳せずにはられません。今後とも、貴国と我が国とが互いに手を携えて、末永く平和を享受して繁栄し、発展することを願って止みません。